

音の輪・音の和



一般社団法人
兵庫県音楽療法士会

2015年3月発行 No.5

「音楽療法の学びについて考える ～岡崎顧問との対談を通じて～」

一般社団法人兵庫県音楽療法士会 理事長 松崎聡子



松崎理事長と岡崎顧問

今年度から顧問にご就任頂いた岡崎香奈先生(神戸大学大学院准教授)と2014年10月9日に当会事務所において「音楽療法の学び」について意見交換をさせていただきました。発会して12年が経ち、会員が230名となった現在、どのように学びの場を考えていったらよいのか、そして音楽療法士としてどのように学びを続けていけばよいのかを考える時間になりました。

♪臨床家として学ぶ



岡崎顧問

当会の会員の多くは“落ち着いた年齢”になってから音楽療法を学び始めた人が多く、私もそのひとりです。学び始め当初は、音楽療法の研修会や講習会があると聞けば東奔西走していました。まるでジグソーパズルのピースを埋めるような学びは、学びと学びが繋がりに輪郭が浮

かび上がるのには時間がかかりました。英国や米国で“効率よく学ぶ”ことをされてきた岡崎先生は、効率よく音楽療法を学ぶという教育制度がないのも日本の問題だとおっしゃいました。音楽療法の知識と実践が統合され「知」と「感」が結びつくような学び方をしていないといけない。そして自分の臨床に対して危機感を持っているか、どう責任を取っていくのか、臨床が長くなればなるほど、ますます学びが必要になっていく。自分をケアすること、音楽を大事にすること。そしてそれらすべてはクライアントのためであることだともおっしゃいました。

♪グローバルな視点で

当会が法人化したことにより外に発信する「顔」を持ったことは、大変喜ばしいことではありますが、外見は立派でも中身がスカスカであっては困ります。そのためにも学びを続けることは重要です。岡崎先生からは、「兵庫県音楽療法士会のオリジナリティを大切に、グローバル+ローカル=グローバルな視点を持ち合わせていくことも重要！」という言葉頂きました。兵庫県という地元・地域を大切に足元を固めながら、日本全国そして世界にも目を向けている「知」と「感」が備わったセラピストでありたい。そして当会はそのような専門家集団でありたいと思います。今できることは何か、どのように考えていけばよいのか模索し探求しながら、これからも魅力的な学びの場を創造し、発信していきたいと考えております。



松崎理事長

もくじ

● 音楽療法の学びについて考える	1	● 平成26年度研修会・事例研究事業	5
● 天皇皇后陛下への震災支援活動ご説明	2	● 追悼文/第三回山口陽雄賞授与式	6
● 音・きずなコンサート	2	● 音楽療法定着促進事業	7
● 東北支援	3	● あなたの町のセラピスト	7
● 音楽療法普及事業	4	● 楽器紹介&音楽の豆知識	8
		● 畑崎記念ファッションブルエーシング賞受賞に伴う副賞の用途について	8

「天皇皇后陛下への震災支援活動ご説明」

松崎聡子

阪神淡路大震災から20年を迎える2015年1月17日、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り追悼式典が県公館で執り行われました。式典直後に、東日本大震災支援活動をしている当会を含めた4団体が両陛下に支援活動の説明をさせていただくという大変貴重な機会を頂きました。両陛下は、宮城県気仙沼市や南三陸町等への被災地支援の様子や、「音・きずなコンサート」の活動の写真をじっくりとご覧になり、私の説明を熱心に聴いてくださいました。皇后陛下からの「音

楽療法士になるには、音楽以外にどのようなことが必要ですか。」とのご質問がとても印象強く、わたしは「対象者の心に寄りそえることが大切だと思います。」と答えました。皇后陛下は深くうなずいてくださり、最後に両陛下は優しく微笑みながら「ありがとう。これからも頑張ってください。」とお言葉を頂きました。そのお言葉を胸に、これからも息の長い支援活動をしていきたいと思ひます。

第3回 音・きずなコンサート



公益財団法人 ひょうご震災記念
21世紀研究機構研究調査本部長
室崎益輝氏

ーキと飲み物でのカフェタイムがありました。また、福島
島の被災者団体の「べっこママ」が手作りの小物な
などを販売されました。講演の間は隣室で託児室が用意さ

10月26日兵庫県福祉センターにおいて、今年も東日本大震災復興支援の一環として兵庫県との共催で行われました。今回は2部に分けて、1部は室崎益輝(むろさきよしてる)氏を迎え「大震災とどう向き合うか」と題しての講演、2部は療法士たちによる参加型コンサート、その間に手作りケ

れ、子ども達は積み木やお絵かきなどで楽しみながら過ごしました。講演では、大震災の教訓から「正しく恐れて」「正しく備える」事の必要性を学びました。また大災害になると公助や自助だけではなく、地域での繋がりが大切で「人と人とのきずなの重要性」を再認識しました。コンサートでは、幻想的な音と共にさまざまな楽器を持った“音魔女(おとまじょ)”に扮した音楽療法士に扮した音楽療法士が登場し『ふしぎな国の音楽会』が始まりました。“音魔女”が呪文をかけると花瓶が木琴に、椅子が太鼓に、柿の木も卵も音が鳴る楽器に変身し、参加した子ども達から歓声が上がりました。アンケートでは「講演とコンサートの2部構成がよかった」との意見が大半を占めていました。



東北支援 被災地訪問

今年度も兵庫県から東日本大震災被災地支援補助金を受け、7月、9月、10月の計3回3名ずつが福島県いわき市、宮城県石巻市、東松島市を訪問しました。

●7月28日～30日

中瀬恵津子

地震、津波で家屋を失った方や、原子力発電所の放射能漏れのため避難を余儀なくされた方が今なお暮らしている福島県いわき市仮設住宅に初めて訪問しました。セッション前に、私達一行3名は、仮設住宅の敷地内を、声をかけて小さな子供たちと一緒に太鼓を叩いて回りました。会場の集会所には、様々な年齢の住民方達が集まりヴィオリラやキーボードの伴奏で季節の歌や、懐かしい歌を歌い、踊り、楽器の演奏に参加していただきました。子供達が『カモメの水兵さん』の曲でかわいらしい仕草で踊る姿に、参加者一同笑みがこぼれました。和やかな雰囲気の中『故郷』『いつでも夢を』などを一日も早い復興を願い、祈りを込めて全員で歌いました。参加者達から「こんな風にみんな

一緒になれる催しがうれしかった」「元気が出た」「また来てください」と感想を頂きました。「音楽」が人の心をつなぐと感じた訪問となりました。



●9月9日～11日

河村千恵美

宮城県石巻市・東松島市の障がい者デイサービス2施設と応急仮設、福島県いわき市の応急仮設住宅にて音楽療法を実施しました。

仮設住宅では、水戸黄門御一行様に扮して集会所へのお誘いから始め、集まってくださった皆さんに、季節の曲等の歌唱や打楽器等を使って楽しんでいただきました。興味深げに楽器を覗き込む方、音楽に合わせて声で気持ちを表現する方もおられました。

施設訪問でも、初めて出会った方たちと歌唱や楽器活動を通して交流することができ、音楽の力をあらためて感じました。セッションの後、施設長等との懇談

では、施設の受け入れの現状を伺い、参加型音楽活動の取り入れを考えたいとの言葉もいただきました。



●10月7日～8日

西野 薫

宮城県石巻市のデイサービスと福島県いわき市の仮設住宅に伺いました。高齢者デイサービスでは、手ぬぐい体操、ヘルマンハーブの体験、トーンチャイム奏、ほか歌唱、楽器演奏と様々なプログラムに、みなさん笑顔で積極的に取り組んでくださいました。

社会福祉協議会では、職員の方から、今後の支援が必要な対象者の話や、支援者への音楽療法の必要性などを伺いました。原発被害にあわれた方の仮設住宅でのセッションには、10名ほどの人が参加されました。涙する方や、ピアノ演奏を「ジャズ喫茶みたい」と言われる方、ヘルマンハーブを目の悪いご主人と共に演奏された方もいました。

現地に赴いて知った厳しい現実に、音楽療法で今後

どういう支援ができるのかを深く考えさせられました。継続して音楽を提供しながら時間を共有することが大切だと感じています。当事者はもちろん、今回残念ながら悪天候のため伺えなかった、支援者対象の音楽療法に関しても同じことを感じました。



音楽療法普及事業

神戸市老人福祉施設連盟主催 ろうごの日のつどい

今年も6月5日に神戸文化ホール・中ホールにて「ろうごの日のつどい」が開催されました。第1部は川柳・作文入賞者の表彰式があり、第2部が昨年に引き続き兵庫音楽療法士による参加型のコンサートでした。

テーマは昨年同様「いつもあなたのそばに音楽を～心と身体にやさしい響き～」として、まずトーンチャイムのやさしい音色で『椰子の実』から幕が上がりました。一緒に口ずさんで下さった方も多く、次の身体活動を目的にした『ひょっこりひょうたん島』では、殆どの方々が腕を伸ばしたり縮めたり、身体をひねったりして下さいました。楽器演奏での『岸壁の母』には寸劇も加わり、続く『恋のフーガ』『東京ピグウギ』では会場全体が一体化し、盛り上がりました。次のピアノ・バイオリン・フルートによる『雨のメドレー』は、雨の曲が何曲入っていたかというクイズ形式でより楽しんで頂いたようでした。最後は故郷メドレーを合唱して終わりました。



神戸ハーバライオンズクラブ主催 第6回ハートフルコンサート

11月2日に兵庫県中央労働センター大ホールにて、第6回ハートフルコンサートが開催されました。

オープニングのトーンチャイムとオカリナの『スマイルアゲイン』に続き、『挨拶の歌』で音楽療法士と会場の皆さんとあいさつを交わしました。次に身体活動として、会場に広がった音楽療法士たちと一緒に『妖怪体操』を元気よく歌い踊りました。『クラリネットをこわしちゃった』『サウンドオブミュージック』などのクラリネット4重奏が演奏されると、会場から歌声や手拍子がわき上がりました。次の楽器活動は『ドンスカパンパン応援団』に合わせて、たまごマラカスを自由に振り、思い思いに鳴らしていました。最後は合唱です。『ハッピーソング』『にげんっていいな』『ピリブ』の歌声が会場いっぱいに広がり、皆さんと音楽療法士たちとが繋がった瞬間を実感できました。



平成26年度 研修会・事例研究会事業

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月
研修会
「音楽一言語一踊り一文化土壌
～世界の音楽療法の潮流～」
益子 務 (ますこつとむ)氏
(武庫川女子大学名誉教授) | 10月
研修会
「悲しみのころが求める
優しく美しい音色」
高木 慶子 (たかき よしこ)氏
(上智大学特任教授、
上智大学グリーンケア研究所所長) |
| 5月
公開研修会
「音楽療法士の感性化トレーニング
について～ワークショップを交えて～」
岡崎 香奈 (おかざき かな)氏
(日本音楽療法学会、
英国・米国公認音楽療法士) | 11月
研修会
「非営利組織(NPOを含む)について知ろう」
尾角 光美 (おかくてるみ)氏
(一般社団法人リヴオン代表理事)
講義とワークショップ「事業を作ってみよう」
野池 雅人 (のいけまさと)氏
(きょうとNPOセンター常務理事・事務局長) |
| 6月
事例研修会
「音楽療法におけるテクノロジー活用」
一ノ瀬 智子 (いちのせ ともこ)氏
(武庫川女子大学准教授、
日本音楽療法学会認定音楽療法士) | 12月
事例研修会
「改めて考えましょう
音楽療法に携わる者の責務と倫理」
後藤 浩子 (ごとう ひろこ)氏
(臨床心理士、
日本音楽療法学会認定音楽療法士) |
| 7月
事例研究会
「動作分析をしてみよう」
後藤 力 (ごとう ちから)氏
(広島国際大学准教授、理学療法士) | 1月
公開研修会
「文化中心音楽療法」
「統合失調症の音楽療法」
阪上 正巳 (さかうえ まさみ)氏
(国立音楽大学教授、日本音楽療法学会評議員、
日本芸術療法学会理事) |
| 8月
公開研修会
「音楽療法における統計分析入門」
～有意差検定はなぜ必要か?～
「ピハラー活動における音楽の果たす役割」
安本 義正 (やすもと よしまさ)氏
(京都文教短期大学教授・学長) | 2月
事例研究会
「リハビリテーションにおける音楽の
可能性 有用性と留意点について」
阿比留 睦美 (あひる むつみ)氏
(日米認定音楽療法士、
京都大学医学研究科特別研究員) |
| 9月
事例研究会
「言葉で伝わること、
音楽で伝わること」
北本 福美 (きたもと ふくみ)氏
(金沢医科大学神経精神医学講師、
臨床心理士、芸術療法士) | 3月
公開研修会
「自分の『音楽』を広げる
～クラシックを学ぶ人々に向けた授業より～」
鈴木 祐仁 (すずき ゆうじ)氏
(日本音楽療法学会認定音楽療法士、
東京音楽大学付属高校講師) |

追悼文

堀 早苗

前兵庫県知事 貝原俊民(かいばら としたみ)様、兵庫県音楽療法士会顧問・向陽病院理事長 山口陽雄(やまぐち ひでお)先生…大切なお二人相次いで喪いました。震災20年を迎えるこの時期に本当に寂しいことです。

貝原様には、多くのご経験から様々なお知恵を頂戴し、ご指導頂きました。また、お忙しい中、当会の式典などにもいつもご出席下さいました。

山口先生には、折に触れ、直接的にまた間接的にありとあらゆるご支援を頂き、的確なご助言、励ましを頂きながら支えて頂きました。

阪神淡路大震災によって大きく傷ついた兵庫県。1999年、県民の「心のケア」を目指した音楽療法の講座が始まりました。2002年、兵庫県音楽療法士27名が誕生。講座関係者の皆様、そして、貝原様、山口先生から県下での音楽療法普及発展の為に、認定音楽療法士による「兵庫県音楽療法士会」の立ち上げのご指示を受けました。

初代会長としての任を受け27名一丸となり、歩み始めました。27名で始まった小さな団体を、山口先生が大きな温かいお力で、ずっと支えて下さったからこそ、今の「兵庫県音楽療法士会」があるといっても過言ではありません。

この突然のお別れに際して、脳裡に浮かぶのは、貝原様、山口先生のお優しい笑顔ばかりです。お二人の想いを胸に、感謝の心を忘れず、日々の音楽療法活動における「人」との出会いを大切に、研鑽を積みたいと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



故 貝原俊民様

故 山口陽雄先生

第三回山口陽雄賞授与式

音楽療法の普及発展・音楽療法士の士気向上を目的として設立された山口陽雄賞の授与式が11月8日に行われ、福井圭子会員に授与されました。頌栄短期大学名誉教授であり審査委員長の阿部恩(あべ めぐみ)氏より「多岐にわたる業績並び、普及活動や音楽療法士会の運営にも尽力されました」と審査講評を読み上げられました。当会顧問であられた山口陽雄氏(医療法人社団向陽会理事長)の代理である山口直子氏(同社団理事)より「山口顧問が病床に伏しているときも音楽に支えられています。これからも多くの方が音楽療法を受けることができますように音楽療法の普及を望みます」とお祝いの言葉が述べられ、賞状並びに副賞が贈られました。それを受け福井氏は「音楽療法士の制度を進めて下さった山口先生に感謝します。よき先輩や仲間と手を取り合い、実践を続けてきて、こ

の人生に無駄はなかった。これからも音楽療法の実践に尽力します。」と決意を述べられました。



左から 阿部 恩氏 福井圭子会員 山口直子氏

音楽療法定着促進事業

「障がい児・者」施設での利用3倍に！

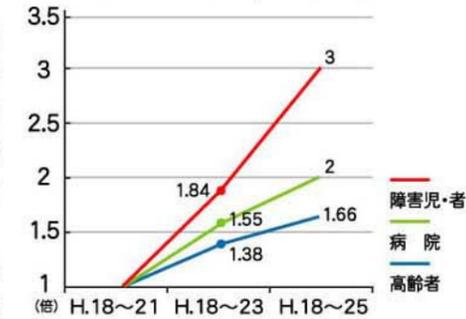
兵庫県の補助事業を受けての『音楽療法定着促進事業』(旧 音楽療法補助制度)も9年目になりました。

「行政のバックアップがある恵まれた環境に感謝するとともに、今後もこの事業が継続できる様に、又、必要としている方々へご希望に添う音楽療法をお届けできるように努力したいと思います。」(コーディネーター折橋)

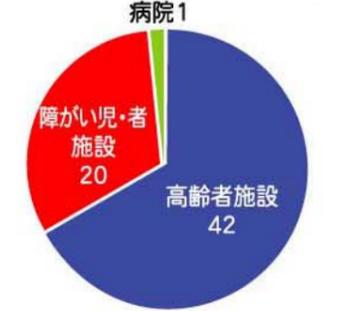
今回は、これまで促進事業をご利用いただいた施設数についてまとめてみました。

促進の利用施設の約90%が継続されており、特に障がい児・者施設でのご利用が増加しています。当事業を利用し、継続中の障がい児・者施設3か所にインタビューをさせていただきました。

新規および継続中の施設数増加率 (平成18~21年度を1として)



平成25年度事業利用施設数 (全63施設)



Q1. 音楽療法定着促進事業採用のきっかけとその後の継続理由を教えてください。

きっかけ	継続理由
<ul style="list-style-type: none"> 職員から「音楽療法がよい。」と声が上がった。 健康管理、日常生活充実のため。 1年間の補助金があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者が楽しみにしている。 対象者に合わせた選曲や対象者の反応を確認しながらの音楽的対応があることが素晴らしい。 日中活動の充実がみられる。

Q3. 日常においての対象者の変化はみられますか？

- ものごとに積極的になった。
- 音楽CDを聴く人が増えた。
- 他のことにも関心を持ち、諸活動への参加意欲が高まった。
- 入浴時・散髪時、多動の対象者に職員が音楽を口ずさむことによって、嫌がらずにスムーズに誘導できるようになった。
- 集中力が出来た。
- 手首の動きが良くなった。

Q2. セッション中に対象者の反応や様子はいかがですか？

- 対象者が楽しそうにしている。
- 表情の変化がある。
- おとなしい対象者が声を出す。
- 時間中落ち着いて退席することがない。
- 積極的になる。
- 集団行動ができる。
- 苦手な身体活動ができる。
- 注目を浴びて喜んでいる。

Q4. 職員の方は、音楽療法に対してどのように感じられますか？

- 楽しい、気分転換。
- 新鮮であり、刺激になる。
- セッション後に新鮮な気持ちで対象者に接することができる。
- 一緒に活動に参加することで対象者との連帯感があり、いろいろな感情を拭い去ってくれる。

インタビューにご協力いただきました施設の方々、どうもありがとうございました。音楽療法を皆様の施設でも、取り入れてみませんか？どうぞコーディネーターまでご連絡ください。

TEL078-261-9601 FAX.078-261-9602 Eメール hmta_sokushin@ybb.ne.jp

あなたの町のセラピスト

萩野由美子(神戸市北区在住)

2000年、音楽雑誌に音楽療法士の仕事を紹介されていたのを見て興味を持ちました。当時所属の楽器店で音楽療法講座に参加し音楽療法の概要と基礎を学びました。同時期に重度のダウン症の女子(4歳)の音楽遊びを依頼され、音楽療法を本格的に勉強するきっかけとなりました。現在、自宅教室で数名の障がい児の個別音楽療法を実施し、特別養護老人ホームでは高齢者の大集団と小集団、昨年からは県立の特別支援高等学校にて音楽療法の授業を担当し、地元で「母と子の音楽療法倶楽部」を主宰しています。最初に関わった重度のダウン症のAちゃんは全く発語がなく発語促進のアプローチを続けたところ、半年後、突然Aちゃんが大きなスヌーピーの人形を指さして「ス・ヌ・ピ」と発した時の感激は深く心に残っています。対象

者の今のニーズが何かを知り、どんな音楽を使用するかを決定すると同時に、何よりも対象者との関係性が一番大切と考え、良好な関係性がなければ音楽療法は成り立たないとの思いを、普段から心掛けております。

今後、障がい児が気軽に「音楽療法」を受ける事が出来る環境を作りたいです。

その為には、地域の人に「音楽療法」をもっと知ってもらえるように働きかけも必要だと思います。





楽器紹介

音楽の

& 豆知識



♪【親指ピアノ】

アフリカの民族楽器。「ンピラ」や「カリンバ」などの名で呼ばれ各地に拡まっており、音色もさまざまのようです。西洋人が「親指ピアノ」と名付けました。

ジンバブエの「ンピラ」はリード(振動板)が分厚く、音には確かにピアノ風のコシがあります。親指だけでリードを弾いて演奏するのですが、裏技でしばしば人差し指も用いられます。東アフリカの「カリンバ」は、大・中・小で「イリンバ」「マリンバ(カリンバ)」「チリンバ」という呼び名があります。

親指ピアノは中央のリードが長く、両側に行くに従い短くなっており、単純に言えば左右の親指を交互に弾いてドレミを弾くわけですが、地域、演奏者、曲によって音の並びは千差万別です。親指ピアノの音量は僅かなものですが、ピンと長からず短からず響く虚ろな音はのどかさを感じさせます。手の中に収まるほどの小さな楽器なので、ベッドサイドでの音楽療法や、個人セッションなどで使われることがあります。

参考文献 八木正一編著 音楽授業を20倍楽しくするお話のネタ 参考文献 若林忠宏著 まるごと！民族楽器徹底ガイド

♪【音楽用語とイタリア語】

楽譜には、さまざまな音楽用語が記されています。

Andante(アンダンテ)・・・歩く速さで
Moderato(モデラート)・・・中ぐらいの速さで

上記の2つの言葉はイタリア語の速度標語です。音楽用語に使われる外国語はイタリア語が多いようです。

さてそのイタリア語。実はおもしろい言葉も見つかります。

乾杯=チンチン

食堂の主人=タベルナ

1、2、3・・・=ウノ、ドゥエ、トゥレ・・・

ウノといえば有名なカード遊びがありましたね。また、ドゥエーデュエット/トゥレ→トリオなどの言葉を連想できませんか？ Prest(プレスト)は、「速く」という意味です。もしイタリアでタクシーに乗り、急いでほしい時は、運転手さんに「プレスト！」と言えばOK。音楽用語はけっこう日常会話でも適用するようです。

畑崎記念ファッションブルエージング賞受賞に伴う副賞の用途について

昨年度、公益財団法人畑崎財団より畑崎記念ファッションブルエージング賞を受賞し、副賞としていただいた賞金で楽器を購入いたしました。コンサート、東北支援活動に役立てていきたいと思っております。



(購入楽器)

- キーボード
- スネアドラムセット
- ツウバーノ
- キッズコンガドラム
- キッズジャンベドラム
- アゴゴ
- ピブラスラップ



畑崎記念ファッションブルエージング賞 授賞式

兵庫県音楽療法士会事務所は《兵庫県福祉センター6F》です



JR灘駅・阪急王子公園駅下車
徒歩約10分
神戸市バス(90・92系統)
上筒井1丁目バス停下車すぐ



兵庫県音楽療法士会では 以下のURLのホームページを運営しております。音楽療法に関することはもちろんのこと、会の活動内容や公開研修会の案内などをご覧いただくことができます。他に兵庫県の名所を音楽と共に伝えたいページや音遊びのページもあります。音楽療法で使う楽器の紹介も充実させたいと思っております。是非HPにもおいでください。 <http://hmta2.net/> (IT担当 今野)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F 一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局
TEL(078)261-9601 FAX(078)261-9602 E-mail:hmta_02@ybb.ne.jp



今年は、阪神・淡路大震災20周年を迎え、地域・社会貢献活動が定着しつつある中、自分の臨床での「危機感」や「責任」に目を向け、より広い「知」と「感」が備わったセラピストとしてクライアントに快適な臨床を提供する所存です。今回の広報誌は「見易い」「読み易い」ということに努力しました。広報誌の発行に、ご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。(広報部)